

2014年7月1日  
43号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 飯嶋和秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

## 【ひたちなか総合病院理念】

「地域を護る病院」として説明責任を基本とした最新の技術とサービスを提供し患者さんが納得・満足される医療を遂行する

## 【ひたちなか総合病院基本方針】

「地域の皆さまの信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する②教育・研修を充実させて最新の医療技術を確認し、職員満足を向上する③説明責任と最良のサービスを遂行し、患者満足を向上する④質を基盤とした総合的医療の質経営を実施し、持続成長可能な病院にする を実践する。

## 【2014年度品質目標】

- ・マクロ・メゾ・ミクロ構造に基づきMy PDCAを回す・医療のTQMツールを利用してTQC活動を活性化する・データセンタ（アンサンプル・キャッシュ）を活用する・業務支援管理を含め医療・看護のスマトラを推進する・教育・研修センタを充実しがん診療連携拠点病院の認可を得る・地域IT連携により在宅医療と後方支援病院連携を推進する
- ・持続成長可能な病院運営をする

## ごあいさつ

院長 永井庸次



新緑を過ぎ、初夏のこの頃、皆様方には健やかにお過ごしのことと思います。当院も2010年6月29日新棟移転し、7月1日旧水戸総合病院からひたちなか総合病院に名称変更し

てから丸4年を経過いたしました。月日の過ぎるのは誠に早いもので、この間、忘れもしない2011年3月11日の東日本大震災のつらい経験もありました。

4年経過して、当院は皆様方の思い浮かべられた病院にリニューアルしましたでしょうか。「地域を護る病院」になったのでしょうか、なりつつあるのでしょうか、それとも全くそのかけらもないのでしょうか。医師・看護師・リハビリスタッフの充実など、私の描いていた新病院のイメージにある程度展開できたと思える一方、医療の提供という面で質・量ともに、皆様方に満足いただけ、職員も満足し、「地域を護る病院」としての位置付けが固まっているのかと問われると、個人的には残念ながら未だ道遠しと思っております。

医師数は、筑波大学との社会連携講座を含め医師臨床研修制度の確立と共に、当院の医師は70名を超え、全国348カ所ある二次医療圏中、常陸太田・ひたちなか医療圏の人口10万当たりの医師数は、古い時代の全国で下から2番目、茨城県で最下位から、最近では全国で下から6番目、茨城県で2番目に低い位置に向上しました。看護師、リハビリスタッフ数も現在全国でそれぞれ下から13番目、81番目に位置しております。その中で、外来診

療の原則予約制とその利点・難点の周知、その難点を補う意味もある救急・総合診療の充実、さらに高度専門医療化、特に、内科の循環器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、呼吸器内科、血液内科、代謝内科、腎臓内科等の専門分野の充実に対する皆様方の認知度の向上などは喫緊の課題です。この機にぜひ推進していきたく思いますが、6月から循環器内科に以前当院にも在職していた田中先生を含め2名の専門医が加わりましたので、是非皆様にはご活用いただければ幸いです。

来年のがん診療連携拠点病院の認可に向け、がん診療、特に手術、放射線治療、化学療法、緩和ケアの周知・拡充・構築を図っております。手術は内視鏡手術を、放射線治療は東京女子医大からお招きした三橋教授を、緩和ケアは神賀副院長を中心に充実させていきます。

本間ひたちなか市長は新聞紙上で市の廃校利用として看護学校についてなどを述べておられます。当院も今後の高齢化社会を見据え看護師の確保、質向上に資する施策の1つとして応援できればと考えております。また、地域包括ケアなど医療・介護・福祉の連携・充実につきましては、訪問看護ステーションなど在宅部門のさらなる充実と近隣施設との連携、院内訪問診療科の新設、救急等の充実を見据えた循環器センタ等の新設などを合わせて考えているところです。

最後に、この4年間で見えてきた当院の課題、病床は現在の302床で本当に足りるのか、地域包括ケア病棟は必要なのか、救急センタ・在宅センタ・看護教育・健診センタリニューアル等の更なる充実・構築は必要なのか、多種多様な課題が山積みしております。これらの課題・難題も皆様方のご協力のもと一つひとつ解決していきたいと考えておりますので、是非「地域を護る病院」に今以上のご支援のほど、宜しく願いいたします。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

7月		8月		9月		10月																									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日										
		1	2	3	4	⑤						1	②			1	2	3	4	5	⑥				1	2	3	④			
7	⑥	7	8	9	10	11	⑫	8	③	4	5	6	7	8	⑨	9	⑦	8	9	10	11	12	⑬	10	⑤	6	7	8	9	10	⑪
月	⑬	14	15	16	17	18	⑱	月	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	月	⑭	⑮	16	17	18	19	⑳	月	⑫	⑬	14	15	16	17	⑱
	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖		⑰	18	19	20	21	22	⑳		㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗		⑲	20	21	22	23	24	㉕
	㉗	28	29	30	31				㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝			㉘	㉙	30						㉖	27	28	29	30	31	

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日

## 災害対策水ライフライン設備 「地下水膜ろ過システム」を導入

5月30日（金）、当院において「地下水膜ろ過システム給水式」を挙行政しました。

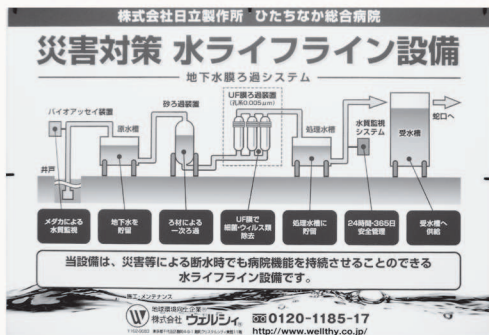
東日本大震災時の教訓を踏まえ、今回、公共水道に加え、地下水を利用した地下水膜ろ過システムを導入し水源の2WAY化を図りました。日常から災害時の給水を確保することで、病院の事業継続計画（BCP）対応、災害時の地域貢献（医療活動に支障のない範囲で市内医療機関や市民への水供給）を目的に導入したものです。また、「ひたちなか市、ひたちなか市医師会、株式会社日立製作所ひたちなか総合病院」の3者にて災害時における井戸水の給水協力に関する協定書を締結いたします。

〈井戸の概要〉

井戸深度 14m 掘削口径 1,000mm（1m）  
1日の最大処理量 198m<sup>3</sup>/日（ひたちなか総合病院  
用水量：150m<sup>3</sup>/日）



▲給水式で起動スイッチを入れる  
ひたちなか市の永盛副市長（右）と永井院長



## 「看護の日」のイベント開催

5月17日（土）、正面玄関1階ロビーにおいて、看護の日のイベントを開催しました。当院の看護師が所属するフラダンスチームのダンス披露や、ゲーム、バザーなどお子様だけでなく大人の方にも楽しんでいただきました。その他BLS体験や健康チェック・栄養相談、ハンドマッサージ、肌年齢・骨強度レベルチェックなど10コーナーを設置、地域の皆様の参加によりイベントを盛り上げることができました。また、皆様のご協力によりバザーの収益金26,780円を公益社団法人茨城県看護協会愛の募金へ献金いたしました。ぜひ来年もより多くの患者さんやご家族の方々に満足していただけるものになりたいと思います。

## 熱中症を防ぐために

総合健診センター 保健師 吉田 美子

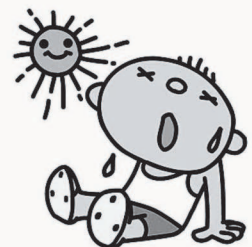
熱中症とは、高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働かないことにより、体内に熱がたまり筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や倦怠感などの症状が現れ、重症になると死亡する場合があります。熱中症を正しく理解し、予防に努めましょう。

〈予防法〉

1. 室内の温度は28℃、湿度70%を目安にエアコンを上手に使う。（この範囲なら熱中症に陥る人が明らかに少ないというデータ）
2. エアコンと扇風機の両方を使って温度・湿度を下げる。壁に冷風を送ると太陽熱で暖められた壁を冷やすことができ、室温も下げられる。
3. 水温は5～15℃が体内に吸収されやすい適温。一般的には食事とは別に1日1.2ℓ程度の水分補給が必要。屋外作業で汗を大量にかく人は、汗で失われる分をプラスする。こまめに水分補給を。
4. コーヒーや紅茶・緑茶などに含まれるカフェインは、利尿作用があり飲んでも尿で失われてしまうので水分補給には適しない。ミネラルウォーターや麦茶などカフェインを含まない飲料を選ぶ。
5. アルコールにも利尿作用があるため、夏の暑い日、冷たいビールとは別に、水も1杯飲むようにする。

〈対処法〉

めまい、立ちくらみ、吐き気、頭痛などの症状があらわれたら、体をひやす、水を飲ませる、衣類を緩めて休ませるなどの処置をして様子を見る。よくならない、意識がないときは、至急病院に受診させる必要があります。



## 採用・退職医師の紹介

診療科	氏名	異動日
循環器内科	田中 喜美夫	採用（2014. 4. 10）
	湯川 明和	採用（2014. 6. 1）
神経内科	山本 詞子	採用（2014. 6. 1）
外科	高橋 一広	退職（2014. 6. 30）
臨床研修医	塚田 裕伍	退職（2014. 5. 31）
	高木 理央	退職（2014. 5. 31）
	足立 将大	退職（2014. 6. 30）
	渡辺 憲幸	退職（2014. 6. 30）
	菊池 直哉	採用（2014. 6. 1）